I. C. W. A. NEWS

第27号

昭和59年3月1日　　責任者　杉山龍丸

福岡市中央区大名1丁目12番24号

国際文化福祉協会出版局　　〒810　TEL（092）771－0427

○　オーストラリア、第2回国際砂漠会議（2nd International Ranngeland Congress）において、国際砂漠緑化技術訓練センターの設置問題を具体化について、協議することになり、目下その内容に関する交渉が進展しつつある。

国際文化福祉協会（国際砂漠緑化協会財団法人設立準備委員会）は、この会議において、昭和51年（1976）以来、国際連合総事務局長MR. Kurt Waldheimに提案して、砂漠緑化の問題は、国際連合環境管理理事会,F.A.O.,国際連合その他において論議はされるが、具体的実施の場が全くない事において、現地に砂漠緑化技術訓練を行うための、国際砂漠緑化技術訓練センターを設立することが賛成された。

この事は、インドのモラルヂー首相の賛成を得て、具体化を（昭和52年～55年）行っていたが、インドの政変で中止保留されている。

この事において、オーストラリアの会議において、具体化することを、再提出し、この会議において、また、その後に具体的協議を行うことになり、オーストラリアの会議の主任であるDR. A. D. WILSON及びオーストラリア政府、環境庁長官MR. K. E. THOMPSON、また、オーストラリア政府資源局の環境科学会の長であるDR. R. C. Buckleyの賛成を得て、具体化について、事前打合せを行っている。

○　日本政府の外務省、農林水産省は、国際文化福祉協会（国際砂漠緑化協会、財団法人設立準備委員会）のオーストラリアにおける、第2回国際砂漠会議（2nd International Rangeland Cangress）について、問い合せをしたが、日本政府においては此の分野の研究、調査、実施は全くなく、審議不可能のみでなく、機構、態勢も全くないので、何等支援の方法が無いから、是非民間でやって欲しいとの事であった。

国際文化福祉協会では、昭和４６年以来、日本政府において、日本砂漠開発協会が、社団法人として設立されているため、民間のものは各大学を始めとして研究、調査、実施は不可能の状況であった。昭和５２年、この日本砂漠開発協会が、中近東のアラブ連合首長国のプロジェクトが問題（具体的に緑化することが困難になった）になり、衆議院副議長　三宅正一　氏の強っての要望で、この日本砂漠開発協会の問題への協力を求められたが、方法が悪く不可能で、このプロジェクトの中止撤収を進言し、昭和５３年中止し、昭和５６年解散した事実がある。

この事において、今日、世界的規模においての砂漠化の問題、砂漠緑化の事業において、まだ調査、研究、実施については勿論、日本政府において機構態勢上の何等の対応がなされていない事は、世界的に大きな問題であると考える。

まして日本は、その国民の食糧を、外国に殆んど依存している状況であることにおいて、全国民、全人類の立場において、速やかに、具体的な方法を推進すべきであると信じる。

○　オーストラリア、第2回国際砂漠会議の内容について

1.　この会議は、昭和５９年５月１３日～１８日、アデレード市において行われる。

2.　主催者、オーストラリア砂漠協会（AUSTRALIAN RANGELAND SOCIETY）

協賛後援者、オーストラリア・学術会議（AUSTRALIAN ACADEMY OF SCIENCEとUNESCO MAB Program

3.　招 待 者

北米、米国、英国、濠州、アフリカ諸国、インド、ヨーロッパ各国、アジア、各国の砂漠の専門学者。

4.　日本からの参加者

多分、国際文化福祉協会理事長杉山龍丸一人であると考える。

5.　会議の項目について

㈠　草原（牧草）の生産（GRAZING INDUSRIES）

㈡　鉱業と砂漠地（MINIG AND RANGELAND）

㈢　牧草の管理組織（MANAGMENT OF GRAZING SYSTEMS）

㈣　乾燥した砂漠地の技術の導入（TECHNOLOGICAL IMPROVEMENT OF ARID RANGELANDS）

㈤　動物（家蓄）生産（ANIMAL PRODUETION）

㈥　砂漠地植物の再生理学（ECOPHYSIOLOGY OF RANGELAND PLANTS）

㈦　発展世界の挑戦と機会（DEVELOPING WORLD CHARENG AND OPPORTUNITIES）

㈧　分類資源の監視と行政（RANGERSOURCES MONITORING AND ADMINISTRATION）

㈨　保護と自然生活（CONSERVION AND WILDLIFE）

㈩　乾燥地と亜乾燥地の火事（FIREINARID AND SEMI-ARID REGIONS）

○　**砂漠緑化の事業を通して、人類の世界を思う。**

私達人類は、近代文明をつくり、自然を征服したと考えている。

しかし、本当に自然を征服したのであろうか？

そこに砂漠化の問題があるように思う。

人類は、膨大な組織と機構を持つようになっているが、この砂漠緑化の問題は、自然の中に樹を一本植えることに始まる。

誰でも出来るし、具体化出来ることである。しかし、この膨大な組織、機構の中に生きる努力で、肝心なことを見失っているのであるまいか？

食糧、酸素、水が無ければ生きられない。それらは樹、植物によっ培養され作られている。

それらの自然への恵みに、応ずることを忘れて、人間として生きられるのであろうか？

助けを求めても、何もしなければ、解決は無いという現実を知るべきであろう。

○　**国際砂漠会議（2nd International Rangeland Congress）への日程予定**

1. 日本よりの出発、昭和５９年４月下旬
2. 昭和５９年４月３０日～１２日　現地視察旅行

   TOWNSVILLE－MT ISA－CHARIEVILLE－ADELAIDE
3. 会議出席　昭和５９年５月１３日～１８日　ADELAIDE
4. 国際砂漠緑化技術訓練センター設置についての協議、ADELAIDE
5. 帰国　６月初旬

壮行会行事

昭和５９年４月２５日、西日本新聞国際ホール、午後１時